

諮問日：平成29年8月22日（平成29年度（最情）諮問第50号）

答申日：平成30年2月23日（平成29年度（最情）答申第63号）

件名：司法修習生の事前課題に関する模範答案等の不開示判断（不存在）に関する件

答 申 書

第1 委員会の結論

「第69期司法修習生の事前課題に関する模範答案，参考答案その他司法研修所教官室が作成した答案」（以下「本件開示申出文書」という。）の開示の申出に対し，最高裁判所事務総長が，本件開示申出文書は作成し，又は取得していないとして不開示とした判断（以下「原判断」という。）は，妥当である。

第2 事案の概要

本件は，苦情申出人からの裁判所の保有する司法行政文書の開示に関する事務の取扱要綱（以下「取扱要綱」という。）記第2に定める開示の申出に対し，最高裁判所事務総長が平成29年2月2日付けで原判断を行ったところ，取扱要綱記第11の1に定める苦情が申し出られ，取扱要綱記第11の4に定める諮問がされたものである。

第3 苦情申出人の主張の要旨

本件開示申出文書が本当に存在しないかどうか不明である。

第4 最高裁判所事務総長の説明の要旨

司法修習は，法曹に共通して必要とされる法的問題の解決のための基本的な視点や考え方を学ばせることを目的としており，正解を重視しているものではなく，事前課題について，模範答案，参考答案等は作成していない。

第5 調査審議の経過

当委員会は，本件諮問について，以下のとおり調査審議を行った。

- ① 平成29年8月22日 諮問の受理
- ② 同日 最高裁判所事務総長から理由説明書を收受

③ 同年11月10日 審議

④ 平成30年1月19日 審議

第6 委員会の判断の理由

1 最高裁判所事務総長の上記説明によれば、司法修習は、法曹に共通して必要とされる法的問題の解決のための基本的な視点や考え方を学ばせることを目的としており、正解を重視しているものではなく、事前課題について、模範答案、参考答案等は作成していないため、本件開示申出文書を保有していないとのことであり、このような説明の内容が不合理とはいえない。そのほか、最高裁判所において本件開示申出文書を保有していることをうかがわせる事情は認められない。

したがって、最高裁判所において本件開示申出文書を保有していないと認められる。

2 以上のとおりであるから、原判断については、最高裁判所において本件開示申出文書を保有していないと認められるから、妥当であると判断した。

情報公開・個人情報保護審査委員会

委員長 高橋 滋

委員 久保 潔

委員 門口 正人